

日本史学コース案内

——大学院進学のためのガイダンス——

2021 年 11 月 24 日（水）

I 日本史学コース概要

日本史学コースでは、日本列島上に生きた人々の生活と社会および諸外国との関係全般にわたる歴史的展開のあとを、実証的に考究していきます。また、日本の歴史に関する専門の研究者（職業的研究者）を目指す人、文書館・博物館・民俗資料館などへの勤務を志す人、教員として歴史教育に関わりたいと考える人などのため、高度の知識や歴史理論および史（資）料操作に関する緻密な技術を修得することを目標としています。

II 教員紹介

日本史の各時代・各分野に対応できるよう専任教員を配置しています。古代2人、中世2人、近世2人、近現代3人という豊富なスタッフを擁し、政治史、社会史、運動史から、対外関係史、文化史などまで、幅広い領域にわたってカバー可能な陣容となっています。

古代史

たなか ふみお
田中 史生

【専攻分野】 古代史（国際交流史）

【主 著】『日本古代国家の民族支配と渡来人』（校倉書房、1997 年）
『倭国と渡来人』（吉川弘文館、2005 年）
『国際交易と古代日本』（吉川弘文館、2012 年）
『国際交易の古代列島』（株式会社 KADOKAWA、2016 年）
『越境の古代史』（株式会社 KADOKAWA、2017 年）

【現在関心を持っているテーマ】

列島各地の地域的な国際交流と、渡来人や交易者、文字や仏教など、越境する人や文化の研究を通して、列島の古代社会の歴史的多元性や多様性、国際性の解明を進めている。

かわじり あきお
川尻 秋生

【専攻分野】 古代史（特に平安期）

【主 著】『古代東国史の基礎的研究』（塙書房、2003 年）
『日本古代の格と資財帳』（吉川弘文館、2003 年）
『戦争の日本史4 平将門の乱』（吉川弘文館、2007 年）
『全集日本の歴史4 揺れ動く貴族社会』（小学館、2008 年）
『シリーズ日本古代史5 平安京遷都』（岩波書店、2011 年）
『古代の東国2 坂東の成立 飛鳥・奈良時代』（吉川弘文館、2017 年）

【現在関心を持っているテーマ】

東国を中心とした地域史。日本と中国の比較による法律の歴史。寺院を中心とした仏教史。歴史の機微を大切にしながら日本の古代史を考えていきたいと考えている。

中世史

しもむら しゅうたろう
下村 周太郎

【専攻分野】 中世史（特に前期）

【主 著】 「幕府」概念と武家政権史」（『史海』 62、2015 年）

「中世における樹木観・竹木観の展開」（『木材の中世』 高志書院、2015 年）

「法と公文書」（『日本「文」学史 第二冊』 勉誠出版、2017 年）

「頼朝と征夷大將軍任官」（『征夷大將軍研究の最前線』 洋泉社、2018 年）

「九条兼実における天文密奏と天変祈祷」（『変革期の社会と九条兼実』 勉誠出版、2018 年）

「大和国栄山寺領墓山と「栄山寺々中并山林絵図」 一小島村との関係を中心に一」（『よみがえる荘園』 勉誠出版、2019 年）

【現在関心を持っているテーマ】

イデオロギー、徳政、自他認識、歴史意識、心性、概念史、街道、戦争、非常時、天変地異、水辺環境、樹木観、生命観などをキーワードに、中世の国家論・社会論について研究しています。

く ぼ けんいちろう
久保 健一郎

【専攻分野】 中世史（特に後期）

【主 著】 『戦国大名と公儀』（校倉書房、2001 年）

『戦国時代戦争経済論』（校倉書房、2015 年）

『戦国大名の兵粮事情』（吉川弘文館、2015 年）

『中近世移行期の公儀と武家権力』（同成社、2017 年）

『列島の戦国史 1 享徳の乱と戦国時代』（吉川弘文館、2020 年）

【現在関心を持っているテーマ】

戦国大名における公儀の研究から出発し、中世後期の戦争と経済をめぐる人間や社会の動向に関心を持っている。

近世史

たにぐち しんこ
谷口 眞子

【専攻分野】 近世史

【主 著】 『近世社会と法規範——名誉・身分・実力行使』（吉川弘文館、2005 年）

『赤穂浪士の実像』（吉川弘文館、2006 年）

『武士道考——喧嘩・敵討・無礼討ち』（角川学芸出版、2007 年）

『赤穂浪士と吉良邸討入り』（吉川弘文館、2013 年）

河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重編『日本「文」学史 第二冊 「文」と人びと——継承と断絶』（勉誠出版、2017 年）

【現在関心を持っているテーマ】

恩赦、殉死、武士道論と兵学、赤穂事件と「忠臣蔵」文化の形成・受容のほか、軍事史的観点から名誉・忠誠・愛国心を日本史・東洋史・西洋史で比較する試み、さらに 19 世紀の軍人と書物の交流

を通じた軍事的学知の交錯についても研究をはじめている。

いがわ けんじ
伊川 健二

〔専攻分野〕 近世史

〔主 著〕『大航海時代の東アジア——日欧通交の歴史的前提』（吉川弘文館、2007 年）

『イタリア史料の収集および整理による中近世移行期日本史像の再検討』（2013 年、科学研究費若手研究(B)研究代表者伊川健二）

『世界史の中の天正遣欧使節』（吉川弘文館、2017 年）

〔現在関心を持っているテーマ〕

中世から近世にかけての知的交流の歴史にとくに関心をもっています。貿易や使節の交換などの直接的な人々の交流のほかに、境界をまたいで間接的に伝達された情報の量と多様性を追求したいと思っています。

近現代史

ふじの ゆうこ
藤野 裕子

〔専攻分野〕 近現代史（明治～戦後）

〔主 著〕『都市と暴動の民衆史 一東京・1905-1923 年一』（有志舎、2015 年）

『民衆暴力 一揆・暴動・虐殺の日本近代一』（中央公論新社、2020 年）

〔現在関心を持っているテーマ〕

近代日本の都市暴動を中心に民衆史・社会史を研究してきた。近年では、ジェンダー史・セクシュアリティ史についても研究を進めている。

つるみ たろう
鶴見 太郎

〔専攻分野〕 近代史（昭和期～／思想・文化史）

〔主 著〕『柳田国男とその弟子たち』（人文書院、1998 年）

『橋浦泰雄伝』（晶文社、2000 年）

『民俗学の熱き日々』（中公新書、2004 年）

『座談の思想』（新潮社、2013 年）

『リーディングス戦後日本の思想水脈4 日常からの挑戦』（岩波書店、2016 年）

『柳田国男 一感じたるまゝ一』（ミネルヴァ書房、2019 年）

〔現在関心を持っているテーマ〕

柳田民俗学とその支持者を分析対象としながら、戦前・戦中期の国民の生活・思想・文化を、民俗学・文化人類学・文学など多角的視点から研究。

まなべ まさゆき
真辺 将之

〔専攻分野〕 近代史（明治期～／思想史・政治史）

- [主 著]『西村茂樹研究』(思文閣出版、2009 年)
『東京専門学校の研究』(早稲田大学出版部、2010 年)
『大隈重信——民意と統治の相克』(中央公論新社、2017 年)

[現在関心を持っているテーマ]

もともとは、明治政府の取った「欧化主義」と呼ばれる思想・政治潮流への反発の動きを研究していたが、近年は、近代日本の政党認識に関する研究や大隈重信研究、早稲田大学史研究なども進めている。

Ⅲ 大学院での活動

1. 授業の紹介

学部での授業とは異なり、大学院では史料講読など演習が中心となります。「講義を聴く」ばかりではなく、自ら積極的に「問い」を発し「答え」を探すことが重要となります。

2. ゼミ活動の紹介

大学院では、古代・中世・近世・近現代に分かれ、ゼミを中心に研究活動を進めていきます。例えば近世を専攻しながらも中世や近現代のゼミに出席するように、専攻の異なるゼミに参加することも可能です。

3. 研究会・学会

それぞれの研究分野ごとに多くの研究会や学会が存在します。早稲田大学でおこなわれているものも多く、院生のみなさんは、自分の研究分野に関係する研究会や学会についての情報を集め、積極的に参加することで研究を深めています。

4. 修士論文・博士論文の紹介

最近提出された主な修士論文・博士論文のタイトルを紹介しておきます。

【修士論文】(過去5年分)

古代史

- ・疫神祭の総合的研究
- ・末法意識の研究
- ・奈良時代の下級官人の生活
- ・日本古代の海産物貢納制
- ・鹿島・香取神宮から見た春日社
- ・後三条期の特質
- ・『後三年合戦絵詞』の成立年代
- ・日本古代の地域社会と神社
- ・律令国家の地方行政と「村」
- ・『令義解』成立の歴史的意義と法意識の変遷
- ・部民の性質変化について

- ・木簡から見る古代の地方支配
- ・次侍従の再検討

中世史

- ・中世前期における女性の政治活動と家族
- ・東国武士と中世社会
- ・鎌倉後期から南北朝期の禅宗と律宗
- ・鎌倉期における王家領領有の展開
- ・中世前期女院家政機関の構成
- ・戦国大名今川氏と国衆
- ・中世後期法隆寺による寺領経営の展開

近世史

- ・近世における朝廷と畿内寺院の交流
- ・金毘羅参詣の隆盛と瀬戸内地域の観光地化
- ・近世中後期における医療の浸透と加賀藩の対策
- ・幕末期の薩摩藩における情報の交錯
- ・近世朝幕間交渉における内慮伺い制度の成立と変容
- ・近世日本の書物文化における民衆の〈古代〉認識

近現代史

- ・明治前期の府県庁舎営繕
- ・昭和初期におけるサラリーマンと会社との関係について
- ・民衆意識と優生思想
- ・近代日本における都市と近郊との関係
- ・林達夫の自由主義思想
- ・明治初期の士族論に関する一考察
- ・関東大震災における皇室の慈善活動
- ・幕末維新期における洋学統制と啓蒙活動
- ・戦前雑誌メディアと男性性の変遷
- ・1930年代の刑事警察
- ・近代日本演劇検閲研究
- ・植民地樺太の地方都市

【博士論文（課程による）】

- ・近代日本都市暴動の民衆史的研究
- ・19世紀における将軍権威の変質と再構築——日光社参の歴史的位罫
- ・17世紀徳川外交の研究
- ・19世紀半ばにおける蝦夷地の内包化とアイヌ統治——箱館奉行所の統治と仁政イデオロギー
- ・内大臣の研究——明治憲法体制と「常侍輔弼」

- ・中世後期の荘園経営と惣村の実態
- ・「院外青年」運動の研究——日露戦後～第一次大戦期における若者と政治との関係史
- ・日本近代におけるアカデミズム史学の形成
- ・鎌倉府の支配体制と権力構造
- ・戦間期日本の炭鉱業と朝鮮人鉱夫 一福岡県筑豊炭田を中心として一
- ・居留地時代（一八五九～一八九九年）における「開国日本」の実態と「外国人」 一在留清国人の地位、管理問題を中心に一
- ・日本古代施薬院の研究
- ・中世荘園制下における在地社会の研究
- ・日本古代天皇の変質 一中世的天皇の形成過程一
- ・江戸幕府の民衆支配と地域社会 一関東取締行政からみる社会変容一

【博士論文（課程によらない）】

- ・秋田藩における中期藩政改革の展開と地域変容
- ・報徳仕法と近世社会——近世社会の成熟と危機対応
- ・「元老制」変容過程の研究——「元老待遇」の形成と「一人元老制」への展開
- ・古代信濃の地域社会構造
- ・日本古代国家の祈雨儀礼と災害認識
- ・増野悦興研究 一あるキリスト者・教育者の生涯と思想一
- ・中世荘園における収取秩序と景観に関する研究

IV 入試について

1. 入試日程（修士課程）＊旧年度につき参考。

- ・出願期間：2021 年 7～8 月

※出願資格によって期間が異なる場合があります。文学研究科ホームページで入試要項を確認してください。

- ・一次試験：2021 年 9 月 16 日（木）
- ・二次試験：2022 年 2 月 2 日（水）

※日本史学コースのみ年明けに実施。他コースとは異なりますので注意してください！

2. 入試問題について

過去に出題された問題については、文学学術院事務所で閲覧（コピー不可）することができますので、入試対策にご利用ください。また、入学センターのホームページでも、著作権に係らない一部の問題を閲覧することができます。

3. 三者協について

日本史・日本史学コースでは、教員・院生・学部生が集まった勉強会を開催しています。古代・中世・近世・近現代の時代ごとに分かれ、史料の読み方などを丁寧に学ぶことができます。アットホームな雰囲気ですので、関心のある方は是非とも参加してみてください。

V 進路について

進路については、研究者だけでなく、中学校や高校の教員、公務員、あるいは一般企業等に就職される方も少なくありません。

以上